

海の豊かさを守ろう（木曜2クラス）

- ① 2025年までに、**海洋ごみや富栄養化※**など、特に陸上の人間の活動によるものをふくめ、**あらゆる海の汚染をふせぎ、大きくへらす。**

※富栄養化とは、水の中にプランクトンなどの生物にとって栄養となる成分（リンやちっ素など）がふえすぎてしまうこと。赤潮の原因となるなど、生態系に影響をあたえるといわれている。

- ② 2020年までに、**海と沿岸の生態系に重大な影響が出ないように、回復力を高めることなどによって、持続的な管理や保護をおこなう。**健全で生産的な海を実現できるように、**海と沿岸の生態系を回復させるための取り組みをおこなう。**

- ③ **あらゆるレベルでの科学的な協力をすすめるなどして、海洋酸性化※の影響が最小限になるようにし、対策をとる。**

※海洋酸性化とは、人間の活動によって大気中にだされた二酸化炭素が海が吸収し、海水がより酸性になること。これによってたとえばサンゴが育たなくなったりし、海の生態系に影響をおよぼすといわれている。

- ④ 2020年までに、**必要以上の量の魚をとる能力や、魚のとりすぎを助長するような漁業への補助金を禁止し、法に反した、または報告や規制のない漁業につながるような補助金をなくし、そのような補助金を新たにつくらないようにする。**

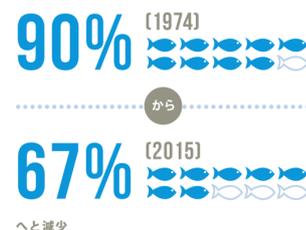
- ⑤ **漁業や水産物の養殖、観光を持続的に管理できるようにし、2030年までに、開発途上の小さい島国や、もっとも開発が遅れている国ぐにが、海洋資源を持続的に利用することで、より大きな経済的利益を得られるようにする。**

〈参考〉



わたしたちが使うペットボトルや ビニール袋などのプラスチックごみが年間900万～1400万トンも 海に流れでています。

生物学的に持続可能な水準にある魚類資源の割合は、



海洋資源をまもるために、漁獲量を管理し、調整する

ことが大切ですが、一国だけが漁獲量を調整しても、

他の国が乱獲しては、いずれその魚が海から消えてしま

うかもしれません。国際社会で協力していくことが

必要不可欠です。